

M.D.C

M's FUN DISCDOG COMPETITION

競技規則

■基本理念

- ・ゲームを通じて犬との関係性を深め、ディスクドッグスポーツの社会における認知度を高めていきます。
- ・犬を常にいたわる気持ちを持ち、安全性を第一に考えます。
- ・笑顔で犬と楽しくプレー出来ることを重視し、参加者がステップアップすることを目指します。

■開催趣旨

フリースタイルのコンペティションです。参加チームは上限20チームとし、プレー後ジャッジペーパーをお渡しし、各ジャッジからのコメントタイムを設けます。コメントタイムは全員同時に行いますが、支障のある方はスタッフまでご相談ください。終了後、課題解決のためのセミナーを実施します。

■ルール

【1】2つのクラス分け

初心者から中級者までを対象とし、初めての方向けのCherry Classと中級者向けのSlightly Classの2つのクラス分けをします。（プレイヤーの年齢は問いません。）

《 各クラスの詳細 》

◇◇Cherry Class チェリークラス◇◇

公式戦に出場経験がなく、これからフリースタイルを楽しみたいチームを対象とします。犬年齢に制限はありません。ただし、ボルトトリックは禁止とします。

◇◇Slightly Class スライトゥリークラス◇◇

犬年齢は、大会開催日に月齢18カ月となっていること。

公式戦に出場経験はあるが、さらにレベルアップを目指しているチームが対象です。

【2】使用ディスク

公式団体で使用が認められているフライングディスク10枚まで使用できます。ただし、チェリークラスはフライングディスク以外の玩具も可とします。

規則に反した場合には、減点が課せられます。

【3】タイムカウント

競技時間は90～120秒とし、タイム計測はフライングディスクもしくは玩具等を手から離し投げた瞬間からとし、ジャッジを開始するのは楽曲の始まりからとします。

ただし、タイムスタート前は、20秒までディスクなしのパフォーマンス（プレルーチン）

を行うことができますが、20秒を超えたところでディスクの有無にかかわらず計測をスタートします。

タイムアップコール後のキャッチングは基本的にカウントしませんが、タイム終了時に次のトリックの態勢に入っている場合はスロー・トス、キャッチングはカウントします。また、コール後の犬の扱いも評価に含みます。

【4】ジャッジ項目

以下の5項目を原則5名がジャッジし、各項目10点満点、合計50点満点とします。

・チームディレクション

チームとしてのコンビネーションプレーや技の難易度を評価します。

・テクニカル

プレイヤーのスロー、トスの正確さ等技術面を評価します。

・ケーナイン

犬の意欲、個々の犬に応じた跳躍力、走力の力強さを評価します。

・アメイジング

フィールドの使い方、ディスクのスムーズな回収や楽曲に対する演出や表現力により見る者にどれだけ感動を与えられるか評価します。

・エクセキューション（ローラー、テイクキャッチも可）

キャッチ数÷スロー数×10

※犬の安全性に関して

下記の場合、減点の対象となります。

・ボルト

犬の安全性に関して最も留意しなければいけないトリックです。能力に応じた踏切、ジャンプ、着地のいずれの段階もプレイヤーによって制御すべきもので、無意味なハイエアボルトを強いるプレイヤーに対し、また犬が四肢以外を地面に打ち付けるようなクラッシュは減点の対象とします。

・体のよじれ 後ろ足からの着地

ジャンプ、キャッチ、着地時に怪我をする危険があるほどひどく身をよじっている場合。

・体のつぶれ

着地時に犬の足が崩れるように地面に付き、それと同時に犬の体の脚以外の部位が地面に当たった場合。

・打撲

犬がジャンプした際、犬の足が地面に付く前に身体の部位を地面に打ちつけた場合。

・転倒

全力で走る犬に投げ出されたディスクが地面に当たり、そのためにスピードを制御できず転倒した場合は減点しませんが、犬の様子がおかしい場合はプレーを止めて犬の状態を確認します。

・1ラウンド内に1回でも危険なクラッシュがある場合、安全確保のためゲームラウンド中であってもジャッジがプレーを中断する権限を持ちます。

・ケガ、出血を確認できた場合

即座にジャッジがプレーを止めます。また大きな怪我、出血の場合以外でもその犬固有の症状がありますので継続が難しいと思った場合はプレイヤーの自己申告により競技を中断することが出来ます。打撲等により明らかに足を引きずる、走り方が変わったなどの場合はジャッジがプレーを止める場合があります。

【5】フィールド

使用フィールドは最大で30m×60mとします。

【6】ヒート犬

ヒート中の雌犬は参加可能ですが、プレー順はクラスにかかわらず最終となります。

【7】音楽について

・プレイヤーは、自分が使用する音楽CDか、スマートフォン等の接続可能なデバイスを用意してください。（特殊な機器の場合は、USB接続が可能な有線コードを自ら用意し、受付時に機器ごと受付担当者に提出してください。）

・CDは丈夫なクリアケースに入れ、CD本体とケースの両方に使用するトラックナンバーとチーム名を記入してください。

※CDは屋外で利用のため、返却する際、傷等がつく可能性があることをご了承ください。

（お願い：自己責任において、録音可能なメディア（CD-R）への転記が望ましいですが、その場合、音楽がかからない場合があるので、できればスマートフォン等で同じ音源もご用意いただいたほうが支障なく進行できます。）

・不適切な内容の音楽の場合、音楽を停止することがあります。公共マナーの範囲内の音楽を選択してください。

・何らかの理由で音楽が停止した場合、プレイヤーは自らの判断で競技を続行するか、取りやめるかを判断してください。

《 演技のスタートに関して 》

・ジャッジの準備完了をアナウンスしますので、その後プレイヤー自身がスタートの合図を出してください。合図を見て音楽をスタートします。

・音楽が間違っている場合、プレイヤーは即座にコールし、やり直すことが出来ます。

・音楽の音量は、プレイヤーがコートの中のどこにいても聞こえる配慮をしますが、環境によっては音量を制限する場合があります。

【8】入場のルールと開始・終了のルール

・会場の設定によって、入退場口は異なります。運営側のアナウンスに従って決められた場所から入退場してください。

・入退場の際、プレイヤーまたは犬は故意にフェンス等をまたがないでください。

・競技コート内には、使用ディスク等以外に、犬を呼び寄せる玩具等を持ち込まないでく

ださい。（スタッフに申告し認められたものは除く）

- ・競技終了時、参加者も含めスムーズな運営のためディスクの回収を手伝ってください。
- ・終了は、タイムコール時となりますが、その前に演技が終わり10秒以上の空白の時間が出来た場合は減点します。
- ・終了はどのトリックでもかまいません。

【9】キャッチングに関する詳細と不慮の中断に関して

- ・演技中、場外にディスクが出てしまった場合はキャッチの有無に関わらずミススローとしてカウントします。
- ・キャッチ後、確実な保持なくディスクが地面に付く、または口からディスクが離れた場合はキャッチとみなされません。
- ・1ラウンド内で犬が2回場外に出た場合は、その時点で競技終了（失格）となります。（コート外は、他の犬との接触や、固定物等への接触による犬のけがを防止するため）
- ・ジャッジ開始後、コート内にて糞尿行為（糞尿行為とは行為にはいった段階とします）があった場合には競技終了（失格）となります。

ペナルティとして2点減点されますが、0点以下にはなりません。

- ・競技中に、プレイヤーの制御できる範囲を超えて中断が発生した場合（糞尿行為は除きます）

時間の計測はジャッジの指示により直ちに止められます。

再開可能となった場合、時間計測は中断時点から再開します。PA故障等不慮の事故が発生した場合は、ジャッジの判断で最初からやり直すことができます。

- ・他の犬が乱入した場合

最初からやり直すか、時間をおいて後から演技するかはプレイヤーが選択できます。

乱入させた行為者には、厳重に注意し2度と起こらないようお願いをします。

故意と思われる複数回の乱入の場合は、競技を中止し別途個別に競技していただきます。

- ・競技中の犬が脱走した場合

タイム計測は継続し、脱走以前のプレーのみ評価します。

全員で犬の安全に留意し確保につとめます。

【10】使用ディスク（詳細）について

- ・ディスクドッグ用を使用すること。
- ・マジックインク等でのマーキングは可能ですが、重さが変わる可能性のあるボンド等の補強・ステッカー貼付等は禁止します。
- ・犬種により使用するディスクサイズはプレイヤーの判断に任せますが、犬に配慮のあるディスクを推奨します。
- ・サイズ・種類の違うディスクの混在は認めません。また、枚数は10枚までとします。
- ・ネイルディレイ等のため、シリコンプレーやグロスなど犬の健康に配慮がないものは禁止とします。

- ・犬のヨダレ対策やディスクの滑り止めとして手袋の使用（推奨はしない）または、「ニールソンスポーツプロダクト ドライハンズ」（推奨レベル）は使用可能です。
- ・競技中は、コート内に持ち込んだディスク以外とは交換できません。

【11】犬に対するハンドラーの行為に関するルール

以下の行為については、大会への参加資格を失います。

別途行うセミナー等において改善されたことが確認できた場合のみ再び参加できます。

- ・犬に対して暴力を振るう。（モノを投げる等の間接的な行為を含みます）
- ・他の犬への攻撃性があるにもかかわらず、他の犬へ寄せる等の配慮のない行為。
- ・大会中に、他の競技中にコートへの乱入が続く場合。
- ・明らかに犬の健康管理への配慮が足りない行為。（熱中症対策等）

【12】コート外での行動について

- ・コート外では他の犬飼いの模範となるべく、リードの装着、糞尿の処理等行ってください。
- ・見学者または来場者とのトラブルには十分注意してください。競技終了後等、犬が興奮している場合がありますので接触には注意してください。トラブルがあった場合には、直ちにスタッフに報告してください。
- ・競技中、コート外での練習は禁止します。
- ・犬にしか聞こえない犬笛などを他のプレイヤーの演技中に使用しない。
- ・ハンドラーの指示に従えず、コート外に出た犬に対して毅然として無視してください。
- ・出来る限りの範囲でいいので、他のチームのプレーに対して応援してください。